

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

|         |                  |         |           |
|---------|------------------|---------|-----------|
| 事業所番号   | 4031538095       |         |           |
| 法人名     | 社会福祉法人みらい        |         |           |
| 事業所名    | グループホームたんたん      |         |           |
| 所在地     | 福岡県筑紫野市美咲1023番地2 |         |           |
| 自己評価作成日 | 令和3年6月18日        | 評価結果確定日 | 令和3年9月25日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a> |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |               |                  |                          |
|-------|---------------|------------------|--------------------------|
| 評価機関名 | 株式会社アール・ツーエス  |                  |                          |
| 所在地   | 福岡市南区井尻 4-2-1 | TEL:092-589-5680 | HP:https://www.r2s.co.jp |
| 訪問調査日 | 令和3年7月1日      |                  |                          |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

グループホームたんたんは、宝満川の真横にあり自然豊かな木々や花々、田畑が多く野鳥やカモが飛来してきます。静かな環境の中でのんびりとした時間を送る事ができます。ご利用者様の長年暮らしてきた日常生活に合わせて日々を送れるよう「出来る事」を見つけ、職員と一緒にこなして頂きます。掃除や洗濯等の家事、レクや散歩を中心とした日常生活の何気ない「当たり前」を一緒にする事で、ご利用者様の不安や喪失感を感じることなく安心して生活して頂ける様に、職員一同、「笑顔いっぱい、優しさいっぱい」の精神で日々、取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成30年4月に開設された「グループホームたんたん」は、特養、地域密着型特養、小規模多機能、デイサービス、ケアプランセンター、クリニックともに併設された大型福祉施設の一角にある。令和2年3月に新ユニットが開設され現在2ユニットとなっている。宝満川の雄大な流れが望め、自然豊かな緑に囲まれ、野鳥やカモが飛来し、心穏やかな時間を送る事ができる。医療も含め総合的なサービスが提供できる事で家族にも安心されている。敷地内には医師が手を入れたバラ園があり、散歩の折に楽しんでいる。地域との関係も当初から良好で、保育園、小学、中学校、近隣のこども達との交流もある。11月には「たんたん祭り」を開催し、地域の方を招待して、相撲部屋からも参加してもらい餅つき大会などを行った。「さんま祭り」では入居者に出来立てのさんまを提供し、他にも慰問でボランティアの方がピアノ、踊りなどを披露されたり、手作りポットなどを作製した。今年はコロナ禍の中、思うような活動はできなかったが、今後も地域を支える総合福祉施設としての発展が大いに期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印                                | 項目 | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印   |
|----|--|----|---|
| 58 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:25,26,27)       | 65 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,21)   |
| 59 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:20,40)             | 66 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,22)                     |
| 60 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:40)                   | 67 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) |
| 61 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている<br>(参考項目:38,39)     | 68 | 職員は、活き活きと働いている<br>(参考項目:11,12)                                      |
| 62 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:51)                  | 69 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       |
| 63 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:32,33)         | 70 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   |
| 64 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている<br>(参考項目:30) |    |   |

| 自己評価および外部評価結果     |     |   |  |   |                   |
|-------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| 自己                | 外部  | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|                   |     |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>I.理念に基づく運営</b> |     |   |  |   |                   |
| 1                 | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている  | グループホーム独自の理念は作成していないが、法人としてのスローガンは建物内のいたるところに掲げている。また理念については、個人個人が携帯し、いつも見られるようにしていると共に、会議内やケアカンファ内でも理念に沿った介護が出来ているかを話し合っている。                                    | 理念、基本方針は社会福祉法人として共通しているものがあり、「笑顔いっぱい」「優しさいっぱい」のスローガンを施設内の各所に掲げられており、常に目につくところにあり、自然と意識したケアにつなげている。理念については個人個人が携帯し、いつでも見られる状態しているとともに、会議、ケアカンファレンス内でも理念に沿った介護ができていくか話し合っている。   |                   |
| 2                 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している  | 天気の良い日は川沿いを散歩にかけ、挨拶をかわしたりしている。新型コロナウイルス感染拡大防止の為、地域の行事なども中止となり関わりを持つ場も減ってきているが、地域の小学生より励ましのコメントが届いたり、川向いより横断幕での応援を頂きました。また、敷地内にバラ園を作り、地域の人々へ開放しており、その場で会話などできている。 | 好天の日は宝満川の川沿いを散歩し、近隣の方と挨拶を交わす。敷地内のバラ園は地域の人々へ開放しており、その場でお話することもある。美咲地区の「隣保館」との交流もあり、地区の夏祭りにも参加した。コロナ禍のなか、地域との交流の場も少なくなっているが、地域の小学生より励ましのコメントが届いたり、川向に横断幕での応援を頂いた。現在は中断しているが、地域に向けて、クリニックの医師による健康教室や、ピアノ、折り紙教室なども計画している。ホールをこどもの絵画展などに貸し出しも行っていった。 |                   |
| 3                 |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている  | 以前は地域に向けて、クリニックの医師による勉強会などをおこなっていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為現在は実施していない。   |   |                   |
| 4                 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている                                     | 2か月毎に地域代表、民生委員、市職員、包括支援センター、利用者、利用者家族等をメンバーとした運営推進会議をおこなっていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止により現在は書面で報告書を作成し、各メンバーに郵送にて報告のみ実施している。   | 2か月毎に地域代表、民生委員、市職員、包括支援センター、利用者、利用者家族をメンバーとし運営推進会議を開催していたが、コロナ禍のなか書面にて報告書を作成し各メンバーに郵送にて報告をしている。意見、要望などを集約し、サービス向上に努めている。同業者で構成されている老人福祉施設協議会は、ネットワーク会議にて交流を行っており、サービスの質の向上に努めている。   |                   |
| 5                 | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる   | 介護保険更新申請やおむつ給付の申請など、電話で意見を聞いたり、直接窓口に向くなどしながら報告・相談をおこなっている。新型コロナウイルス感染症拡大予防の為、運営推進会議の開催についても、電話にて相談するなど協力関係を築くよう努めている。  | 介護申請などの際は窓口を持参している。最近はおむつ給付の件で相談した。コロナ禍のなか運営推進会議の開催についても、電話にて相談を行なった。運営推進会議を開催の際には参加してもらい、事業所の実情、ケアサービスの取り組みなどを積極的に伝え、協力関係を築くよう努めている。   |                   |
| 6                 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 法人内での勉強会に出席したり、ケアカンファ内でも拘束しないケアする方法などを話し合っている。ホーム自体は建物の2階に位置しており、エレベーターや非常階段については施錠されているが、お互いのユニット間やレクリエーションルーム、ベランダ等へは自由に行き来できるようにしている。                         | 法人内での勉強会は動画研修を行っている。ケアカンファレンスの中でも拘束しないケアの方法などを話し合う。法人全体で身体拘束廃止委員会があり、毎月事例検討や振り返りを行っている。事業所は建物の2階にあり、エレベーターや非常階段は施錠されているが、ユニット間、レクリエーションルーム、ベランダなどには自由に行き来できるようにしている。ベランダに花、野菜なども作っている。2ユニットを来訪する利用者には、職員が見守りながら自由に行き来している。                      |                   |

R3.7自己・外部評価票(GHたんたん)

| 自己 | 外部  | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |  |
|----|-----|--|---|--|--|
|    |     |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| 7  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている   | 法人内での勉強会の他、スタッフ会議の中でも取り上げながら職員同士で話し合い、虐待防止に努めている。   |  |  |
| 8  | (6) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している  | 管理者や計画作成担当者は勉強会の参加経験があり、制度についておおむね理解できている。また、成年後見人制度や日常生活自立支援事業の資料なども揃えており、ご家族からの相談時にはいつでも説明できるよう準備している。                  | 施設内研修は映像にて定期的に行われている。現在成年後見制度を利用している方がおり、弁護士さんが行っている。成年後見制度、日常生活自立支援事業の資料なども揃えている。家族からの相談時にはいつでも説明できるように準備しており、「隣保館」に相談することもある。  |  |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている   | 利用料については契約前や契約時に料金表等で説明をおこなっている。また、ご家族の疑問や不安については契約時に納得がいくまで説明をおこなっている。入居後についても不安や疑問を尋ね、その都度十分な説明をおこなっている。                |  |  |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている   | 新型コロナウイルス感染症拡大防止により運営推進会議の開催が出来ていない為、意見を表せる場が減っている。電話で近況などをお伝えしたりする際や、新型コロナ感染症の感染状況をみながら実施している。面会時にはその都度意見や要望についてお尋ねしている。 | コロナ禍のなか運営推進会議が開催できず、意見を表せる場が減っている。家族訪問時に意見、要望などを聞き取ったり、電話をかけたりと細やかに対応し、それらを運営に反映させている。外部評価のアンケートの集計率も高く好意的な意見が多くみられた。  | 今後お便りなどのなかに日常の様子、誕生会の様子などの写真を同封されてみてはどうだろうか。写真の同意書も取られたとの事、事業所内の様子がよりよくわかり、安心されるのではないだろうか。 |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている  | 代表者や管理者は定期的に各職員と面談を実施し、意見や要望を聞く機会を設けている。また、ユニット会議時に職員の意見や要望をまとめ、全体会議の中でリーダーが反映に向けての提案をおこなっている。                            | 管理者との面談は年1~2回、年度末にあり、意見や要望を話す機会がある。日常的に気軽に話すことができ、対応してもらっている。ユニット会議時に職員の意見や要望をリーダーがまとめる。リーダーは一人で両ユニットを担当しており、全体会議の中で反映に向けての提案を行っている。   |  |
| 12 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている  | 代表者は管理者や各職員の役割や実践年数に応じ、外部研修への参加を実施している。また、定期的に面談をおこないながら、各自の意見の把握に努め、職場環境や条件の見直しに努めている。                                   |  |  |
| 13 | (9) | ○人権の尊重<br>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 面接の際に、性別や年齢等を理由に採用対象から排除することはない。個々の持つ資格や能力が発揮できるよう配慮している。また、家庭環境や体調面での時間短縮での労働や、希望に応じての定年後の期間延長での労働も出来るよう配慮されている。         | 職員は14名で男性職員が2名。性別や年齢などに採用対象から排除することはない。時間短縮の希望にも応じてもらえる。休憩室もあり、休み時間は1時間ある。外部の研修を受ける機会も設けてくれ又法人内での研修もある。コロナワクチンについて、1階のクリニックの医師の話を聞く機会があり、いろいろな機会でも、自己研鑽に励むことができる。今後資格取得の希望もあり、真摯に仕事に向き合っている。 |  |

R3.7自己・外部評価票(GHたんたん)

| 自己                           | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
|                              |      |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14                           | (10) | ○人権教育・啓発活動<br>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる                           | 以前は外部より講師を招いての研修を年1回実施していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、今年度は実施できていない。地区の同和問題に携わっている職員はおり、情報収集や資料の掲示などはおこなわれている。                        | 施設内研修を定期的に行っている。地区の同和問題に携わっている職員がおり、情報収集や資料の掲示などが行われ、身近なわかりやすい研修ができています。 |                   |
| 15                           |      | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 各職員の実績や年数、力量等を把握し、勤務扱いで外部研修を受ける機会を設けている。また、法人内でも定期的に研修を実施し、働きながらケアの実践に繋げていけるようトレーニングしている。                                     |  |                   |
| 16                           |      | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同業者で構成される老人福祉施設協議会の会議も、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、中止になり、交流の場がもてていない。リモート会議などの設備が整った時期に数回、ネットワーク会議はおこなわれている。                           |  |                   |
| <b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |      |  |   |  |                   |
| 17                           |      | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている           | 基本的には事前面談時に、ご本人の不安や要望を尋ね対応している。入居を納得されていない利用者に対しては、ご家族と話し合いの中で入居目的を統一し、同じ回答をすることで納得できるようにしている。                                |  |                   |
| 18                           |      | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている                      | 入居相談や事前面談時など、ご家族の不安や思いを傾聴し、一つひとつ納得がいくまで説明をおこなっている。新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、入居後の面会できる機会が少ないが、電話で近況をお伝えしながら、不安や要望をお尋ねしながら関係づくりに努めている。 |  |                   |
| 19                           |      | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている                  | 入居相談の段階で、困りごとや求めているもの等を傾聴し、必要なサービスや入居時期などを踏まえながら、当施設以外の施設の特徴や他のサービスなどいろいろな選択肢があることも説明をおこなっている。                                |  |                   |
| 20                           |      | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                                  | 暮らしを共にする者同士、できることは一緒にやっていたきながら、常に感謝の意を伝えている。日々の中で、ご利用者よりお礼の言葉や労いの言葉を掛けていただく事も多く、それが職員の励みとなり共に支えあう関係となっている。                    |  |                   |
| 21                           |      | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている                   | 面会時には近況報告にて、気づきや変化をお伝えしている。新型コロナ感染症拡大防止の為、面会の機会が減ってきており、最近では電話での報告をおこないながら、疑問点や体調面での対応方法などを相談しながら共に支えていく関係を築いている。             |  |                   |

R3.7自己・外部評価票(GHたんたん)

| 自己                                   | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|--------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
|                                      |      |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22                                   | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                                       | 新型コロナウイルス感染症の感染状況にもよるが、ご家族などの面会時には短時間ではあるがゆっくりお話できるような環境を整えている。面会が出来ない時期は電話でお話していただいている。同法人の他事業所利用経験者には、以前の事業所と一緒に訪問し、再会を喜んでいただいている。           | コロナ禍のなか、サークルなどに参加することはできないが、ベランダで花や野菜を育て趣味の活動をしている。同法人の他事業所利用経験者には、以前の事業所と一緒に訪問し再開を喜んでもらっている。家族への電話の希望がある時は職員が代行で電話をかけたが、家族から電話があった時には取次ぎ、ゆっくりと話をしてもらう。   |                   |
| 23                                   |      | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                                    | ご利用者同士の相性を見極め、トラブルになりそうな時は早めに職員がかかわったり、食席などを検討している。余暇活動を通して、ご利用者同士が自然に関わりを持てるような機会をつくり孤立しないよう努めている。  |   |                   |
| 24                                   |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                     | 同法人の特養への入所後も様子をみにいったり、特養職員より対応方法などを尋ねられた時にはお伝えするなど情報交換をおこなっている。ご家族に対しても、退去時などにいつでも相談にきていただくようお願いしている。  |   |                   |
| <b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |  |   |                   |
| 25                                   | (12) | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 入居前後のアセスメントの中で、ご本人の思いや希望等を尋ねている。また日々の暮らしの中で、何気にした言葉などからも読み取るよう努めている。言葉で表せないご利用者に対しては、日々の表情や行動などからそれらの意味するものを読み取ったり、ご家族に尋ねたりしながら思いや意向の把握に努めている。 | 入居時は本人宅、施設、病院などに管理者、ケアマネジャーが訪問する。施設、病院では動画を取ってもらう。本人の生活、身体、精神状況、課題などをフェイスシートに記載する。1か月及び2か月のラフなプランを立てる。日々の暮らしの中でゆっくり話を傾聴しながら意向の把握に努めている。うまく言葉に表せない利用者に対しては、表情や行動から汲み取る。                                    |                   |
| 26                                   |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | 事前面談時のアセスメントでご本人・ご家族にお尋ねしている。また入居後も日々の会話の中で話を確認をおこなっている。ご本人の言葉の中でわからないことなどはご家族へ尋ねたりもおこなっている。   |   |                   |
| 27                                   |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 1日の大まかな生活の流れはあるが、基本的には自由に過ごして頂いている。家事などのお手伝いや脳トレなどは提供してみても何ができるのか、何に興味を持たれるかなどの把握に努めている。拒否される時は無理強いはいしていない。                                    |   |                   |
| 28                                   | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 居室担当を決め、定期的にはカンファレンスをおこないながら、問題解決に繋がるようケアの方向性を確認している。ご家族の面会時や電話で近況報告を行う時に、要望などをお尋ねし、サービスに反映している。入院等で状況が変化した時はその都度計画の見直しも行い現状に即した介護計画を作成している。   | 職員は2名の担当を持ち、生活記録からケアチェックを行う。担当職員を中心に全員でカンファレンスを行い、課題、問題点を見つけだし、モニタリングにて変化を見逃さず、見直しを行なう。家族の面会時や電話で意見、要望などを聞き取り、医師からコメントをもらい、担当者会議に反映させている。会議には看護師も出席する。家族には書類を送付する。チームで現状に即した介護計画を作成し、介護計画とケア実施記録はひも付いている。 |                   |

R3.7自己・外部評価票(GHたんたん)

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|------|---|--|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                                     | ケアチェック表や個人の生活記録にケアの実践や結果、気づき等を記録し、朝夕の申し送りや日々の介護日誌、申し送りノート等で職員間での情報共有をおこなっている。また、ケアカンファレンスの際、結果や気づきをもとに介護計画の見直しをおこなっている。  |   |                   |
| 30 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる                            | 新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い一時的にサービス利用の制限をさせて頂いた時期もあるが、ご本人やご家族の意向を尋ねながら訪問理美容や訪問歯科などのサービスを取り入れている。ご家族の要望で必要な介護用品の購入や物品購入の代行をしたこともある。  |   |                   |
| 31 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                      | 新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、地域の行事の中止や、外食などへ出かける事も制限されるなど外へ向けての支援ができなくなっているが、図書館より紙芝居を借りてきたり、ビデオ上映などで屋内での暮らしを楽しめるよう工夫している。   |   |                   |
| 32 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                 | 同敷地内にクリニックがあり、日常の体調管理や生活面でのアドバイスは頂いている。事前面談の際には希望を尋ね、入居前のかかりつけ医を継続しているご利用者もおられる。新型コロナウイルス感染状況もあり、受診については職員で対応をおこなっている。緊急時については、その都度ご家族へ相談後、対応を行っている。                                       | 同敷地内にクリニックがあり、月曜日～金曜日まで診療しており、日常の体調管理や生活面でのアドバイスをもらっている。面談の際に希望を聞き、入居前のかかりつけ医を継続している利用者もいる。泌尿器科、皮膚科、精神科、などの他科受診はコロナ禍のなか、職員が対応している。訪問歯科がある。看護師は常勤しており、緊急時の対応ができる。                  |                   |
| 33 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 日常の関わりの中で気づいた状態の変化や身体的な変化についてを看護職へ伝え、同敷地内の病院の医師へと相談するなど適切に対処されている。また、夜間についても看護師に常時連絡が取れるような体制ができている。   |   |                   |
| 34 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院の際には看護師が中心に情報提供書を作成し手渡したり、電話や病院内で直接情報提供をおこなっている。入院後も定期的に電話で担当のソーシャルワーカーと情報交換をおこないながら、状態の把握に努め、早期退院できるように努めている。   |   |                   |
| 35 | (15) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | 契約時にご利用者・ご家族の意向を確認すると共に、状態変化がみられる度にその都度ご本人・ご家族等の意向の確認を行っている。事業者での対応の限界もお話しし、どこで終末期を迎える事が良いのかをご家族と相談している。重度化や終末期の対応に向けて看護師配置をおこない、施設内での研修等の実施も行いながら、受け入れの準備はおこなっているが、現在までに終末期を迎えられた方はおられない。 | 契約時に利用者、家族の意向を確認する。状態変化がみられる度に意向の確認を行い、事業者での対応の限界も話をする。令和2年9月より看護師が常勤するようになり、法人全体で研修を行い、受け入れ準備は行っている。緊急時の対応マニュアルを作成している。同敷地内にクリニックがあり看護師を通じ緊急時には、すぐに医師に相談し指示を仰ぐ。夜間のオンコール体制も整えている。 |                   |

R3.7自己・外部評価票(GHたんたん)

| 自己                               | 外部   | 項目  | 外部評価   |   |
|----------------------------------|------|---|--|---|
|                                  |      |   | 自己評価<br>実践状況   | 実践状況<br>次のステップに向けて期待したい内容   |
| 36                               |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている            | 緊急時の対応マニュアルを作成し、法人内で定期的な研修も実施している。同敷地内に病院があり、看護師の配置もされている為、看護師を通じ緊急時にはすぐに医師へ相談し、指示を仰いでいる。夜間の看護師へのオンコール体制も整えている。AEDも設置している。   |   |
| 37                               | (16) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている            | 非常災害時のマニュアルを作成しており、年2回法人全体での避難訓練もおこなっている。訓練の際に地域の方の参加まではないが、災害時の協力体制についての協定を結んでいただいている。災害時に備え、法人全体での備蓄(水、ご飯、スープ等)も備えている。   | 法人全体で年2回、火災、風水害の避難訓練を行っており、防火管理者もいる。年1回は夜間想定で行ない、年1回は消防署からの立ち会いがある。訓練の際に地域の方の参加まではないが、防災協定は取り交わしている。AEDの設置もあり、救急救命訓練もなされている。災害時に備え、法人全体で、水、ご飯、スープなどを備蓄している。                                     |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |   |  |   |
| 38                               | (17) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                    | ご利用者個々の性格を把握・共有し、人格や誇りを傷つけないような声かけの工夫をおこなっている。排泄時や失禁時の誘導などは、手招きや散歩などへの誘いの言葉でトイレに誘導後、対応をおこなっている。プライバシーの配慮に欠けた言葉かけや対応が見られた際は職員同士注意をしながら改善に努めている。   | 接遇。マナーの動画研修を行っている。自尊心を損なわないような働きかけをスタッフで共有している。トイレや入浴時の声かけにも心配りをしている。配慮に欠けた言葉かけや対応が見られた際には、職員同士注意をしながら改善に努めている。写真等の掲載に関する同意書も取られた。  |
| 39                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                      | 日頃の会話の中で、思いや希望を尋ねたり、自己決定しやすいように問いかけたりしながら思いを表出しやすいように働きかけている。自己表現が難しい人に対しては、表情や行動、日常の反応などから思いを汲み取るように努めている。  |   |
| 40                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日常の流れの中で、体操やレクレーションなどの声かけはおこなっているが、無理強いはせずにご本人の意思に任せている。午睡や散歩など、ご本人の希望を優先しながら一人ひとりのペースを大切にしている。  |   |
| 41                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                   | パーマや髪染めなど訪問美容時は、ご本人の希望を確認しながら伝えている。ご利用者より依頼のあった化粧水や保湿剤などの購入をご家族へ準備していただいている。衣類については、職員が準備することが多く、利用者を選んでもらえるまでではできていない。  |   |
| 42                               | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている      | 能力に合わせてお茶入れやテーブル拭き、後片付けをしていただいている。アセスメントの段階でご本人の苦手な物も確認しており、代替食への変更や、季節に応じた行事食、お寿司の日なども設けられている。新型コロナウイルス感染症の拡大予防の為、現在家族を招いての誕生会の実施はできていないが、その代替で月1回、第4金曜日に誕生者へお花のプレゼントと昼食メニューが祝い膳で提供されている。 | 法人で食材を購入し、集中調理の体制があり厨房より3食とも配食されている。能力に合わせて、下膳、食器洗いなどを行ってもらう。ホットケーキの飾りつけなども行ってもらう。誕生会の際には、食べたい物を聞き、バイキング形式で、コロナ禍以前は、家族と一緒に食事を楽しんだ。外出も思うように行けないので、屋上のオープンスペースで雄大な宝満川を眼下に、遠くの山々を望みながら、おやつを堪能している。 |

R3.7自己・外部評価票(GHたんたん)

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|---|---|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている         | 管理栄養士によりカロリー計算された食事を毎食提供、食事や水分摂取量の記録もおこなっている。嚥下状態や疾病に伴う食事形態や減塩食の提供、摂取量の少ないご利用者にはご家族に相談し、海苔等を準備していただいている。水分についても工夫している。                  |   |                   |
| 44 |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                  | 毎食後、口腔ケアの声かけ・誘導を行い、一人ひとりの必要に応じた支援を行っている。義歯については、夜間に洗浄剤での消毒をしている他、希望や必要に応じ訪問歯科による定期的なケアも行っている。   |   |                   |
| 45 | (19) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている  | 排泄チェック表を作成し、排泄パターンの把握に努めながら、食事前後を中心に必要に応じたトイレ誘導を実施。また、排泄状況や能力に応じ下着や紙パンツ、パット等の種類を検討している。夜間ポータブルトイレ利用の方も、日中はトイレでの排泄ができるよう声かけなどを実施している。    | 排泄チェック表で排泄のパターンを把握し、本人のペースに合わせたトイレに誘導することで失禁回数が減った。排泄状況、能力に応じ布パンツ、リハビリパンツ、パッドなどの種類を検討する。夜間ポータブルトイレの方も日中はトイレでの排泄ができるよう声かけ、実施している。排便についてもレクリエーションで腹部マッサージをしたり、毎朝ラジオ体操を行っている。水分量、食べ物などにも注意し、下剤の分量は看護師、医師に相談している。 |                   |
| 46 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる                  | 水分摂取量を増やす為に嗜好に合わせた飲み物を準備したり、乳製品やゼリーなどを提供している。毎日の体操や散歩なども実施、必要に応じ腹部マッサージもおこなっている。それでも出ない時は看護師を中心に医師との情報交換で下剤の調整をおこなっている。                 |   |                   |
| 47 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 概ねの日程は決めているが、体調が悪い時や拒否時には日にちを変えたり時間を置いたりしながらご本人のタイミングに合わせている。失禁時などはその都度対応をおこなっている。基本的にはお一人おひとりゆっくり入浴していただくが、仲のよいご利用者同士一緒に入浴していただくこともある。 | 週2回個浴で一日4~5名が入浴する。保湿剤などは自分で用意している方もいる。入浴拒否のある方には時間を置いたり、スタッフをかえて声かけをしている。仲のよい利用者同士と一緒に入浴されることもある。家族に温泉に連れて行ってもらっている方もいる。入浴時に皮膚観察などの健康管理も行い、異常時には医師や看護師に報告、相談をしている。入浴時は大切なコミュニケーションの場として大事にしている。               |                   |
| 48 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している                   | 極力日中を活動的に過ごして頂く事で、夜間の睡眠に繋がるよう支援しているが、その方の生活習慣やその時の状況に応じ、午睡もしていただいている。季節に応じた衣類や布団の調整、空調の管理などその人に合った状況で支援している。                            |   |                   |
| 49 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている              | 薬情をファイルし、いつでも確認できるようにしていると共に、疑問点などは看護師や薬剤師に相談・指導していただいている。内服調整等医師との連携は看護師が中心におこなっており、処方の変更時は申し送りノートへ記入の他直接口頭でも伝達されている。                  |   |                   |
| 50 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 事前に確認している生活歴や趣味などを中心に、掃除や食器洗い、洗濯物たたみなど出来る事を探してお願いしている。また、塗り絵や脳トレなど能力に応じた活動が出来るよう材料を準備・提供している。   |   |                   |



R3.7自己・外部評価票(GHたんたん)

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----|------|--|--|--|-------------------|
|    |      |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | (21) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している                      | 新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、基本的には戸外に出かけられることを控えているが、感染状況をみながら、川沿いの散歩やウッドデッキ・屋上での日光浴などはおこなっている。桜の時期はドライブで近隣の神社へ行き、車窓から桜見物を楽しんでいただいた。   | コロナ禍のなか思うように外出はできない。宝満川沿いの散歩やウッドデッキ、屋上などで屋外の風情には触れている。桜の時期には川沿いの桜並木も楽しめた又法人の車をかり、近隣の神社の桜を車窓から楽しんだ。コロナ禍の前は9月には宝満川でカヌー大会が行われていた。職員が仮装して参加した。   |                   |
| 52 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 基本的にはお金の所持はお断りしている。現在新型コロナウイルス感染症拡大防止により外出等も控えている為、使用する場面もないが、以前は外食でおやつを食べに行った時には能力に応じ支払いをしていただいた。   |  |                   |
| 53 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 電話の希望がある時は、職員が代行で電話をかけてご本人と変わったり、ご家族から電話があった際にも取次を行い、ゆっくり話していただいている。手紙を預かった時にもご本人に手渡し、必要に応じ読み上げたりしている。   |  |                   |
| 54 | (22) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビングには大きな窓が使用され、日当たりもよくソファでゆっくりくつろぎながら、外の景色やテレビを楽しむことができるように配置されている。手作りの日めくりカレンダーが備え付けられ、壁には季節ごとに応じた作品などが飾られ、リビングには鯉も水槽で育てられ、ベランダには花や野菜が育てられている。食事時にはご飯の炊ける香が漂い、生活感が感じられる空間となっている。 | リビングには大きな窓が使用され日当たりもよく、眼下には宝満川、反対側には宝満山が眺められ、心穏やかな時が流れている。床はダークブラウンのフローリングで、2ユニット間を一回りできる回廊になっている。手作りの日めくりカレンダーが備え付けられ、壁には利用者が作製した作品が飾られている。リビングには水槽内で鯉が泳いでおり、ベランダでは、花、野菜が育てられている。 |                   |
| 55 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | リビングのソファや食席の他、廊下の所々に椅子が置かれ休めるようになっている。各ユニットから繋がるレクリエーションルームにもソファが置かれ、一人や気の合うご利用者同士、ソファに座り外の景色を眺められたり、自由に散歩できる空間となっている。   |  |                   |
| 56 | (23) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | ベットや冷暖房・カーテン以外の家具はご家族へ依頼し、ご家族の写真やお位牌などご本人が見慣れたものでの空間づくりをご家族と相談しながらおこなっている。また、ご本人の状態に応じベットや家具の配置を考え、動きやすい空間づくりをおこなっている。ご本人が若い頃に描かれた絵をご家族へお願いし、持ち込んで頂いた例もある。                         | ベッド、エアコン、カーテンは備え付けてある。居室のドアは床と同じダークブラウン、ライトブラウンに統一されている。洗面台は各室に備え付けられている。本人が若い頃に描かれた日本画を部屋に飾っている方もいる。使い慣れたタンスなどを持参したり、家族の写真、お位牌なども側に置かれ、見慣れた空間づくりをすることで安心して過ごされている。                |                   |
| 57 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | ホーム内はバリアフリーで統一され、廊下や浴室、トイレには手すりを設置し、手すり伝いで歩けるようになっている。また歩行の妨げにならないように極力足元には物を置かないよう整理整頓を心掛けている。リビング等広い空間では、ソファやテーブルなどの配置を検討し、何かにつかまりながら移動できるよう配慮している。トイレの場所がわかるように張り紙などもおこなっている。   |  |                   |